

見直しませんか、わが家の防災対策

～ 第三回 非常用簡易トイレ ～

愛岐ヶ丘自治会
愛岐ヶ丘防災士会

昨年実施した「震災に対する防災対策状況アンケート」では、非常トイレを準備していないご家庭は56%ありました。食事は半日程度ならば我慢できますが、待たなしで困るのがトイレです。断水時は勿論、断水していても、下水道や終末処理場が被災すればトイレは使えません。

愛岐ヶ丘の下水は、およそ20km離れた岐阜県各務原浄化センターまで管路で運ばれ、処理されています。管路がどこかで被災したり、処理場が被災したりしたら、断水していても各戸のトイレは使用できません。

東日本震災ではこのことが周知されておらず、管路から下水があふれました。この為マンホールから近くの水路まで溝を掘り、多量の消毒剤を投入して急場をしのいだ地区もありましたが、このような事態は衛生面からも厳に避けなければなりません。



素掘水路で近傍水路へ導水した事例（青森県馬淵川流域）

出典：国土交通省「下水道地震・津波対策技術検討委員会報告書 平成24年3月」より



土のうを使用し近傍水路へ導水した事例（宮城県多賀城市）

出典：国土交通省「下水道地震・津波対策技術検討委員会報告書 平成24年3月」より

在宅避難の場合、非常用トイレは欠かせません。必ず用意しておきましょう。ただ、非常用トイレには様々な物が市販されていますが、多く準備しておくには決して安価なものではありません。

そこで、今回は、比較的安価に用意することが出来る非常用の簡易トイレの作り方をご紹介したいと思います。ポリ袋（黒いごみ袋）、凝固剤などを使って、各戸のトイレを利用して作るものです。作り方は次ページに紹介します。

*備蓄は、6～8回/日×人数×7日分は用意しておきたいですね。
4人家族では、約200回分になります。

【参考】



木曾川右岸流域下水道計画のあらまし



「災害時のトイレ」の疑問 どう備える？いくつ必要？

各戸のトイレを利用した「非常用簡易トイレ」の作り方

用意する物

- ポリ袋（黒いごみ袋。中が見えないよう黒い袋をお勧めします。一般的な45Lサイズでも使えなくはありませんが、更に大きなものが良いでしょう。）
- 凝固剤（ホームセンターや通販で入手できます。）
- 養生テープ（接着力が弱くて剥がしやすいガムテープ）
- 軍手（或いはビニール製極薄手袋）
- 細かく切った新聞紙、使用後の袋を密封するテープなど

作り方

- ①ポリ袋に手を入れ、中から片隅をつかみます。
- ②便座を上げた状態で、①でつかんだポリ袋を水が溜まっている便器に突っ込みます。その後、ポリ袋を広げて養生テープで便器に固定します。
- ③便座を下します。

【これが基本状態です。①のポリ袋は使用の度に取り換えません。】

使用時

- ④もう一枚のポリ袋を便座の上からかぶせる。
- ⑤排せつは④の状態で行います。
- ⑥排せつ後凝固剤を入れ、取り外した後、袋ごと少しゆすって凝固を促進させます（細かく切った新聞紙を入れて、見た目や臭いを緩和させるのも良いでしょう。）
- ⑦排せつ後、袋を縛ります。（縛らず、袋をねじってテープなどで封しても良いでしょう。）
- ⑧排せつ物が入ったポリ袋は、適量をまとめて可児市指定の可燃ごみ袋に入れ、ごみ収集日に集積所へ出してください（可児市環境課に確認済み）。

注) 断水していない場合、不用意に洗浄水が流れて袋が流されるという不測の事態を避ける為、洗浄便座の電源は切っておいて下さい。

①



片手を袋の中に入れ、中で片隅をつかみます。

②



養生テープで袋を便器に固定します。

③基本状態です。



便座を下します。

④～⑤使用時



使用時に便座の上からもう一枚かぶせ、排せつ物を受け止めやすい様整えます。テープで止めません。この袋は使用後取り出します。